

第3編

地域別構想

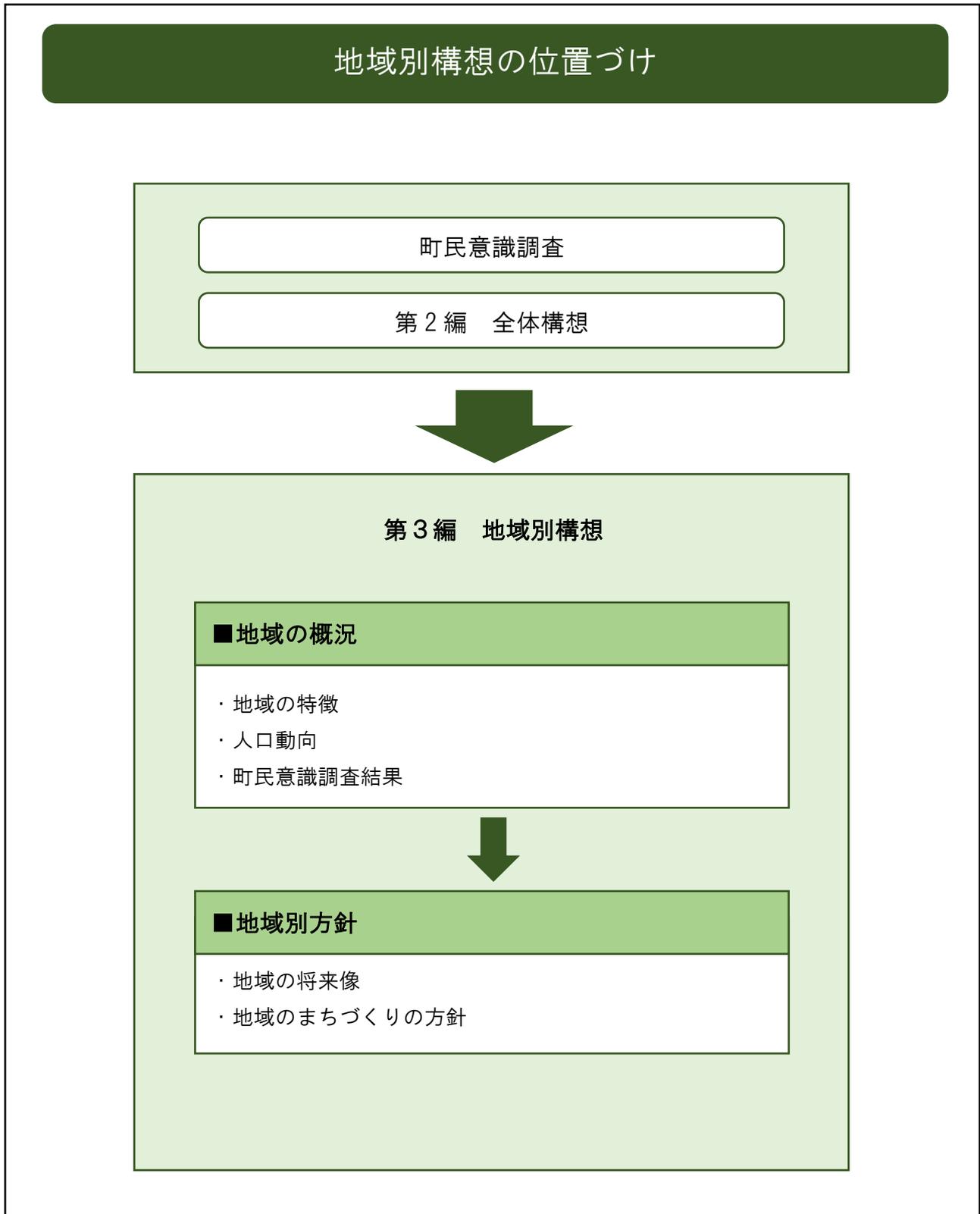
- 第1章 基本的な考え方
- 第2章 地域区分の設定
- 第3章 地域別方針

第1章 基本的な考え方

第2編の川南町の全体構想を受けて、第3編では地域別の構想を提示します。

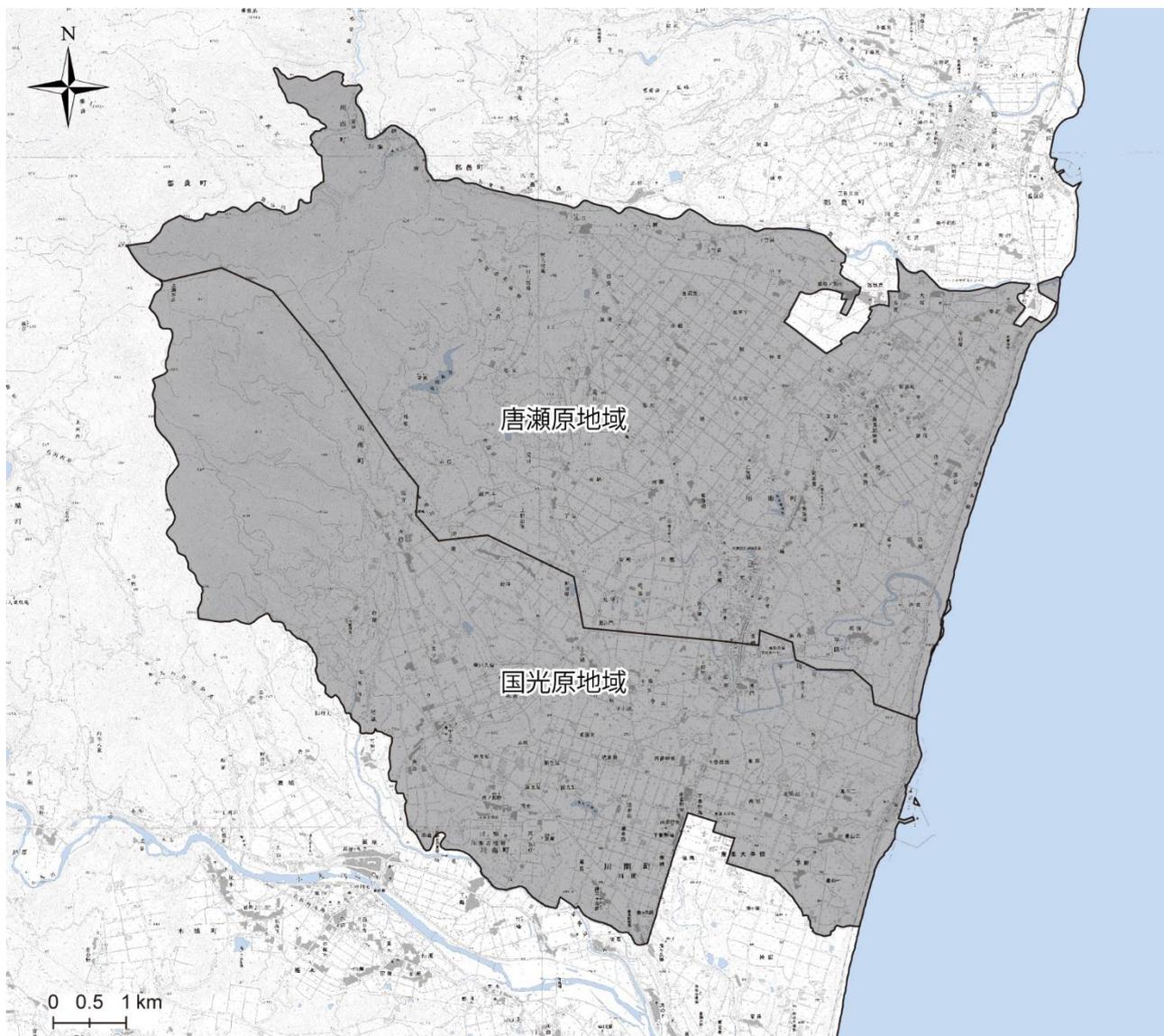
1) 基本的な考え方

地域別構想では、町全体を対象に都市づくりの方向を示した全体構想を受け、地域の身近な問題や課題に対応した個性ある地域づくりの方向性を示します。



第2章 地域区分の設定

地域別構想では、町内を2つの地域に区分します。



▲ 地域区分

第3章 地域別方針

次より地域別方針について示します。

唐瀬原地域

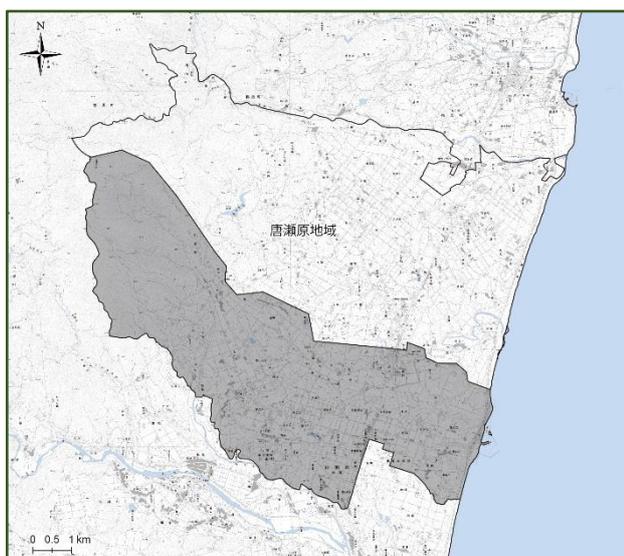
－地域の将来像－

かわみなみの中心的な役割を担う

自然と調和したまち

地域の概況

① 唐瀬原地域

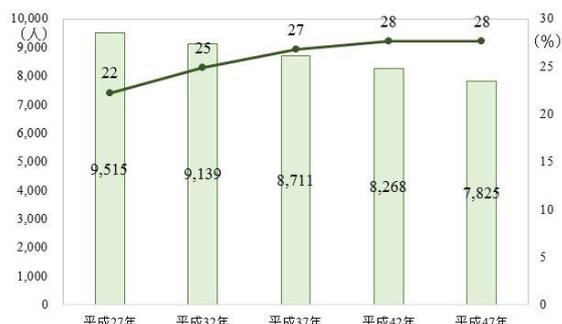


② 唐瀬原地域の特徴

- ・唐瀬原地域は、川南町の北部に位置し、地域の中心を南北方向に国道10号がとおっています。この国道10号の沿線に市街地や集落が形成されているとともに、その周囲には優良な農地が広がっています。
- ・また、川南駅や3つの地域拠点（川南西自治公民館周辺・山本自治公民館周辺・東自治公民館周辺）と中心拠点が位置しているとともに、トロントン商店街が形成されていることから、商業の中心的な役割を担っています。
- ・そして、唐瀬原地域の南部には総合運動公園が位置しており、町民の憩いの場であるとともに、災害時の避難場所等としても機能するため、防災拠点としての役割も担っています。
- ・さらに、唐瀬原地域の北部には、国の天然記念物である川南湿原植物群落が位置しています。

③ 人口動向

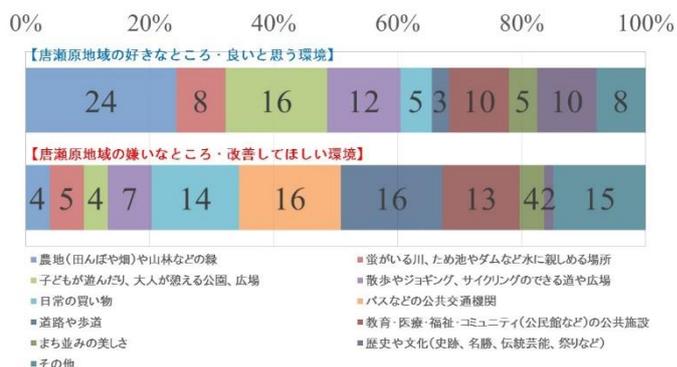
- ・本地域の人口は町全体と同様に将来的に人口は減少し続けて、20年後には高齢化率は約28%まで上昇します。
- ・本地域の20年後の人口（平成47年）が8,000人を下回らないように、維持を目指していきます。



▲ 将来の人口動向

④ 町民意識調査結果

- ・良いと思う環境に着目すると、農地等の緑を良いと思う町民が最も多く、次いで総合運動公園等の子どもが遊んだり、大人が憩える環境を良いと思う町民が多いです。
- ・改善してほしい環境に着目すると、オンデマンドバス（前日予約制）の運行や道路・歩道の状況を改善して欲しいという町民が多いです。



▲ 良いと思う環境・改善してほしい環境

地域の将来像

「かわみなみの中心的な役割を担う自然と調和したまち」

- ・優良な農地を保全しながら、本地域が有する4つの拠点の居住や都市機能の集積を維持しつつ、中心拠点に位置するトロントロン商店街、総合運動公園及び川南湿原植物群落等の既存ストックを活用して、さらに地域の魅力を高めていきます。
- ・交通弱者に配慮したまちをつくるため、公共交通軸（バスの定期路線）の形成を図っていくとともに、中心拠点と駅との連結や近隣自治体との広域連携を強化していきます。
- ・また、景観計画を策定することにより、市街地と周囲の農地等の緑地空間や自然と調和した緑豊かな潤いある環境の形成を図っていきます。

地域のまちづくりの方針

① 土地利用の方針

- ・都市計画区域内については、都市計画法に基づく土地利用施策を展開していきます。
- ・都市計画区域の外側については、農業振興地域や保安林、自然公園地域に指定されており、関連法により土地利用規制がなされています。今後も、大きな枠組みとしての市街地や田園地、自然環境といった都市を構成する各要素の調和を基本としながら、現在の法的枠組みを維持しつつ、中心拠点や地域拠点においてはまとまりがあり暮らしやすい市街地形成を図るとともに、美しい田園地や自然環境を積極的に保全・活用することにより、計画的な土地利用形成を進めていきます。
- ・用途地域内においては、原則、現在の用途地域を維持することにより、適切な用途規制による不適切な用途の混在を抑制して、居住環境等の維持を図っていきます。
- ・商業系用途地域は、トロントロン商店街を中心としており、本地域の核となっています。また、将来的にも本地域の中心拠点として位置付けられることから、商業系用途地域としての運用を継続していきます。
- ・工業系用途地域は、工場が立地しているため、今後も居住環境等の維持を図っていくために、工業系用途地域としての運用を継続していきます。
- ・住居系用途地域の拡大は原則行わないものの、新規住宅が立地し居住環境の悪化が懸念される地区については、良好な住宅地の形成を図っていくために、用途地域の見直しや地区計画の適用による土地利用施策を検討していきます。
- ・公営住宅については、人口減少下においても、拠点の居住の集積を一定程度維持していくために、民間の活力を活用しつつ、拠点への建替えや誘導を検討していきます。
- ・小中学校の統廃合を行った場合に発生する跡地については、民間の活力を活用しつつ、多面的な活用を検討して地域の魅力をさらに高めていきます。
- ・日向灘に面した沿岸地域では、南海トラフ地震による津波災害の危険性が懸念されるため、避難体制の確立等を進めるとともに、中長期的には事前復興や危険が少ない場所への転居なども視野に入れた検討を図っていきます。

② 交通体系の方針

- ・拠点間については、自動車を利用できない町民の移動手段を確保するために、中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通軸（バスの定期路線）の形成を検討していきます。
- ・中心拠点と交通拠点（川南駅）間については、シャトルバスの運行を実施して、駅との連絡性を高めていきます。

- ・町内外については、高等学校通学利便性向上や町外従事者交通支援を目的として、近隣自治体と連携した軸の形成を検討していきます。

③ 都市施設の方針

- ・都市計画道路については、市街地の拡大を前提として都市軸に位置付けられた路線がみられることから、市街地外に位置している長期未着手都市計画道路については、廃止を視野に入れつつ、見直しを図ります。一方で、市街地内に位置している長期未着手都市計画道路のうち、自動車、自転車又は歩行者のアクセス機能向上等が必要な道路については、適切に見直しを実施していきます。
- ・下水道については、適正な運営管理や機能更新を図りつつ、下水道が既に整備されている地域については、加入率の増加を目指していきます。下水道が整備されていない地域については、合併処理浄化槽の設置など、地域の実情に合った整備について検討していきます。
- ・学校については、維持・管理費を削減していくことと、子ども達を『人財』として育てていくために、小中学校の統廃合を検討して、多彩で充実した教育環境を創出していきます。

④ 自然環境・景観の方針

- ・自然環境については、林業の際に発生する間伐等の「木材」を再生可能エネルギーとして「木財」にかえていき、木質バイオマス発電を展開していきます。同時に、余熱を農業方面に有効活用していくことを検討していきます。
- ・また、本町の主要な産業である畜産を活かしたバイオマスリサイクルを検討していきます。
- ・景観については、景観計画を策定して、都市計画区域内外に関わらず、広域的な区域の景観規制・誘導を検討するとともに、都市景観（国道10号や旧国道10号沿線（トロントロン商店街が形成））と自然的景観の調和を図っていきます。



■ 国の天然記念物に指定されている『川南湿原植物群落』



■ 子どもでにぎわう『総合運動公園』

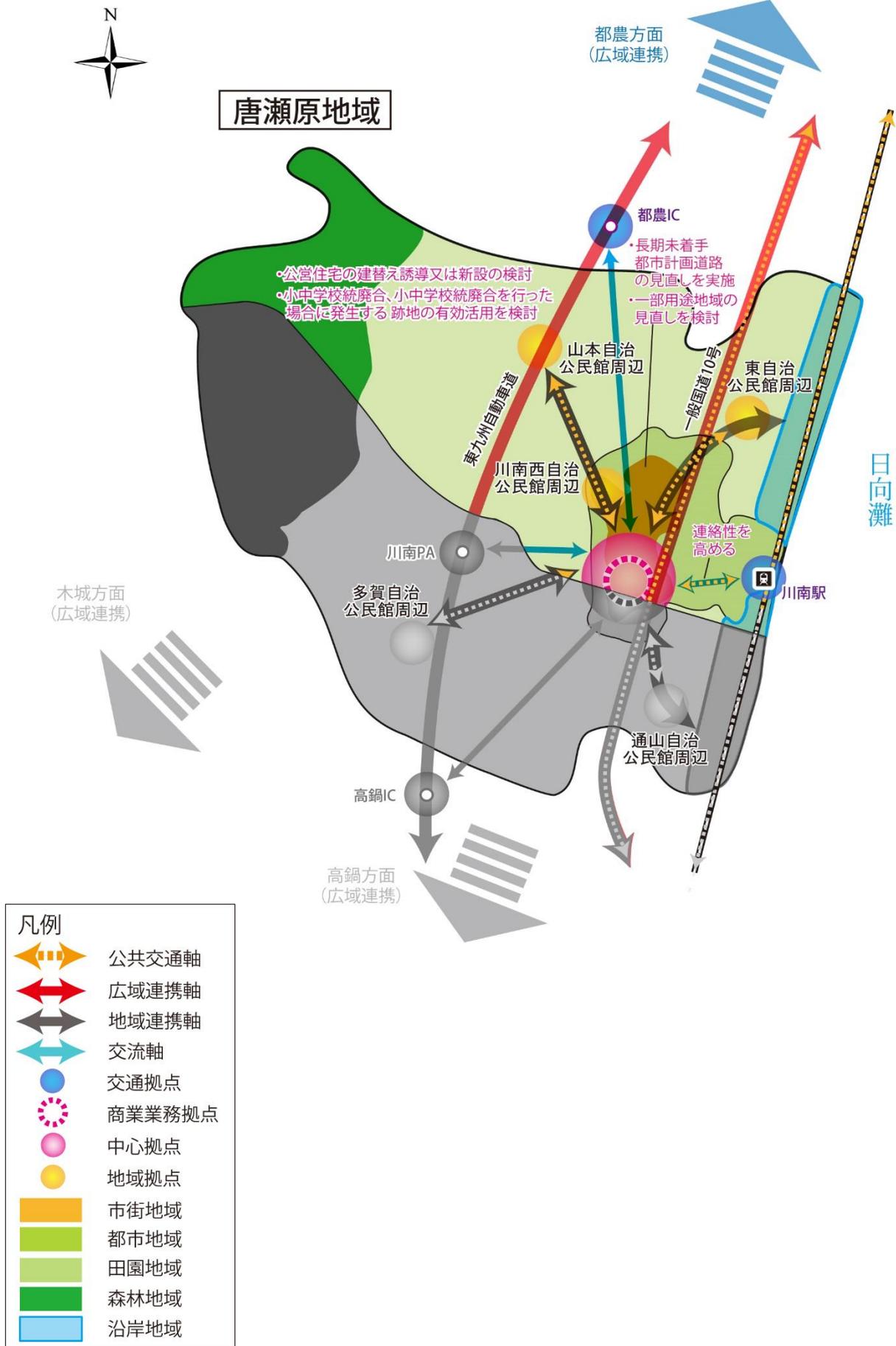


■ 川南町の顔『トロントロン商店街』



■ 川南町のモニュメント『トロントロンドーム』

唐瀬原地域のまちづくり方針図



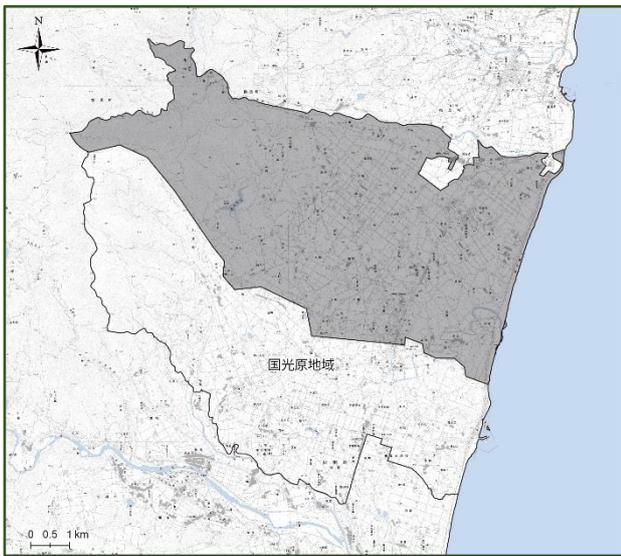
国光原地域

— 地域の将来像 —

美しい日向灘の風景と田園が調和した
心豊かな 住みやすいまち

地域の概況

① 国光原地域

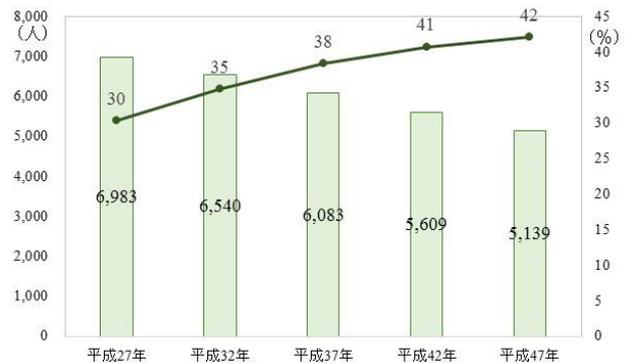


② 国光原地域の特徴

- ・国光原地域は、川南町の南部に位置しており、平成 25 年度の東九州自動車道の延岡～宮崎の全線供用にともない、川南 PA が設置されています。
- ・2つの地域拠点（多賀自治公民館周辺・通山自治公民館周辺）と一部中心拠点が位置しています。沿岸地域では、漁業を営む町民が多く居住しており、本地域は農業と漁業が混在した地域です。
- ・また、国指定史跡に指定されている川南古墳群及び宗麟原供養塔や白鬚神社が位置している等、歴史的な地域資源を有しているため、観光地としての役割も担っています。
- ・そして、日向灘から内陸に向かって標高が高くなる災害に強い地形条件を有しているため、その特性を活かした防災対策が望まれます。

③ 人口動向

- ・本地域の人口は町全体と同様に将来的に人口は減少し続けて、20 年後には高齢化率は約 42%まで上昇します。
- ・本地域の 20 年後の人口（平成 47 年）が 5,500 人を下回らないように、目指していきます。



▲ 将来の人口動向

④ 町民意識調査結果

- ・良いと思う環境に着目すると、農地等の緑を良いと思う町民が最も多く、次いで総合運動公園等の子どもが遊んだり、大人が憩える環境を良いと思う町民が多いです。
- ・改然してほしい環境に着目すると、その他（畜産関係）が最も多く、次いで道路や歩道の状況を改善して欲しいという町民が多いです。



▲ 良いと思う環境・改善してほしい環境

地域の将来像

「美しい日向灘の風景と田園が調和した心豊かな住みやすい町」

- ・優良な農地を保全しながら、本地域が有する2つの拠点及び一部中心拠点における居住や都市機能の集積を維持しつつ、川南古墳群、宗麟原供養塔及び白鬚神社等の既存ストックを活用して、さらに地域の魅力を高めていきます。
- ・交通弱者に配慮したまちをつくるため、公共交通軸（バスの定期路線）の形成を図っていくとともに、川南PAを多面的に活用した交通体系を検討していきます。
- ・また、景観計画を策定することにより、市街地と周囲の農地等の緑地空間や漁港周辺の海辺空間の潤いある環境の形成を図っていきます。

地域のまちづくりの方針

① 土地利用の方針

- ・都市計画区域の外側については、農業振興地域や保安林、自然公園地域に指定されています。今後も、大きな枠組みとしての市街地や田園地、自然環境といった都市を構成する各要素の調和を基本としながら、現在の法的枠組みを維持しつつ、中心拠点や地域拠点においてはまとまりがあり暮らしやすい市街地形成を図っていきます。また、美しい田園地や自然環境を積極的に保全・活用することにより、計画的な土地利用形成を進めていきます。
- ・日向灘に面した沿岸地域では、災害に強い地形条件を活かした防災のまちづくりを検討していきます。
- ・公営住宅については、人口減少下においても、拠点の居住の集積を一定程度維持していくために、民間の活力を活用しつつ、拠点への建替えや誘導を検討していきます。
- ・小中学校の統廃合にともない発生する学校跡地については、民間の活力を活用しつつ、多面的な活用を検討して地域の魅力をさらに高めていきます。
- ・足腰の強い産業を再構築するために、川南PA物産館を建設するとともに、川南PAのスマートインターチェンジ化の可能性を検討していきます。その中で、バス停の設置可能性につい

ても検討していきます。

- ・川南スマートインターチェンジが設置される場合には、立地環境を活かした拠点形成を図る場合、周辺環境悪化が懸念される場合においては、必要に応じて準都市計画区域の適用等による土地利用の規制・誘導も検討していきます。

② 交通体系の方針

- ・拠点間については、自動車を利用できない町民の移動手段を確保するために、中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通軸（バスの定期路線）の形成を検討していきます。
- ・川南スマートインターチェンジが設置される場合には、中心拠点までの交通手段を確保することを検討していきます。

③ 都市施設の方針

- ・下水道については、適正な運営管理や機能更新を図りつつ、下水道が既に整備されている地域については、加入率の増加を目指していきます。下水道が整備されていない地域については、合併処理浄化槽設置などを検討していきます。
- ・学校については、維持・管理費を削減していくことと、子ども達を『人財』として育てていくために、小中学校の統廃合を検討して、多彩で充実した教育環境を創出していきます。

④ 自然環境・景観の方針

- ・自然環境については、林業の際に発生する間伐等の「木材」を再生可能エネルギーとして「木財」にかえていき、木質バイオマス発電を展開していきます。同時に、余熱を農業方面に有効活用していくことを検討していきます。
- ・また、本町の主要な産業である畜産を活かしたバイオマスリサイクルを検討していきます。
- ・景観については、景観計画を策定して、都市計画区域内外に関わらず、広域的な区域の景観規制・誘導を検討するとともに、市街地と周囲の農地等の緑地空間、漁港周辺の海辺空間の潤いある環境の形成を図っていきます。



■ 川南PA



■ 川南漁港



■ 国指定史跡の『川南古墳群』



■ 国指定史跡の『宗麟原供養塔』



■ 本マグロの水揚げ



■ 美しい田園風景

国光原地域のまちづくり方針図

